

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第44週 2023年10月30日（月）～ 2023年11月5日（日） 2023年11月9日作成

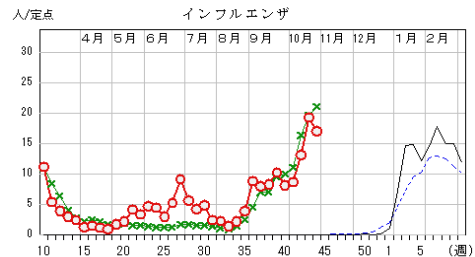
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第44週の報告数は1189人で、前週より160人少なく、定点当たりの報告数は16.99であった。

年齢別では、10～14歳（295人）、5歳（88人）、9歳（84人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（35.18）、県北保健所（24.25）、長崎市保健所（17.71）であった。

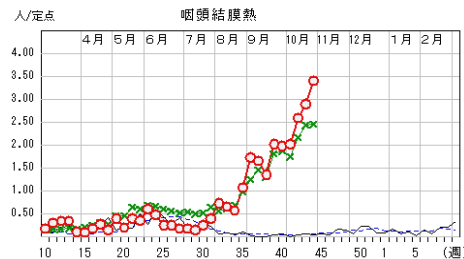


（2）咽頭結膜熱

第44週の報告数は150人で、前週より23人多く、定点当たりの報告数は3.41であった。

年齢別では、1歳（36人）、2歳（33人）、3歳（25人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（10.50）、県央保健所（6.29）、長崎市保健所（5.20）であった。

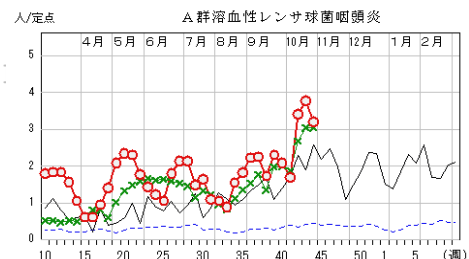


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第44週の報告数は141人で、前週より25人少なく、定点当たりの報告数は3.20であった。

年齢別では、10～14歳（28人）、6歳（21人）、4歳（19人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（10.20）、西彼保健所（8.00）、県北保健所（4.67）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第44週の報告数は1189人で、定点当たりの報告数は16.99となり、3週続けて注意報レベル基準値「10.0」を超えました。地区別でも、佐世保地区（35.18）は警報レベル開始基準値「30.0」を、県北地区（24.25）、長崎地区（17.71）、県央地区（17.27）、西彼地区（11.00）、県南地区（10.88）は注意報レベル基準値を上回っています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【咽頭結膜熱】

第44週の報告数は150人で定点当たりの報告数は3.41となり、県全体で警報レベル開始基準値「3.0」を上回りました。地区別にみると西彼地区（10.50）、県央地区（6.29）、長崎地区（5.20）は警報レベル基準値「3.0」を超えています。また、対馬地区（2.50）は、第31週に「3.0」を超えて以降、終息基準値「1.0」を超えた状態が継続しています。

本疾患は、発熱・咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）および結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。原因の多くはアデノウイルス3型ですが、4、7、11型なども原因となります。年間を通じて発生します。感染経路は、飛沫感染、手指を介した接触感染であり、夏季にプールの水を介した結膜への直接侵入により感染する場合もあるため、「プール熱」とも言われています。治療は対症療法となる為、感染予防が重要です。手洗い、うがいや手指消毒を励行しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第44週の報告数は141人で、前週より25人少なく、定点当たりの報告数は3.20でした。地区別にみると県南地区（10.20）、西彼地区（8.00）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。また、県北地区（4.67）は第43週に「8.0」を超え、今週も終息基準値「4.0」を上回る患者数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第44週の定点当たりの報告数は、「16.99」で前週より減少しましたが、3週続けて**注意報レベル基準値「10.0」**を超えました。

地区別にみると、佐世保地区（35.18）は、3週続けて警報レベルの報告数となっており、県北地区（24.25）、長崎地区（17.71）、県央地区（17.27）、西彼地区（11.00）、県南地区（10.88）も注意報レベル基準値を超えています。

年代別にみると、10歳未満と10代で8割以上を占めています。

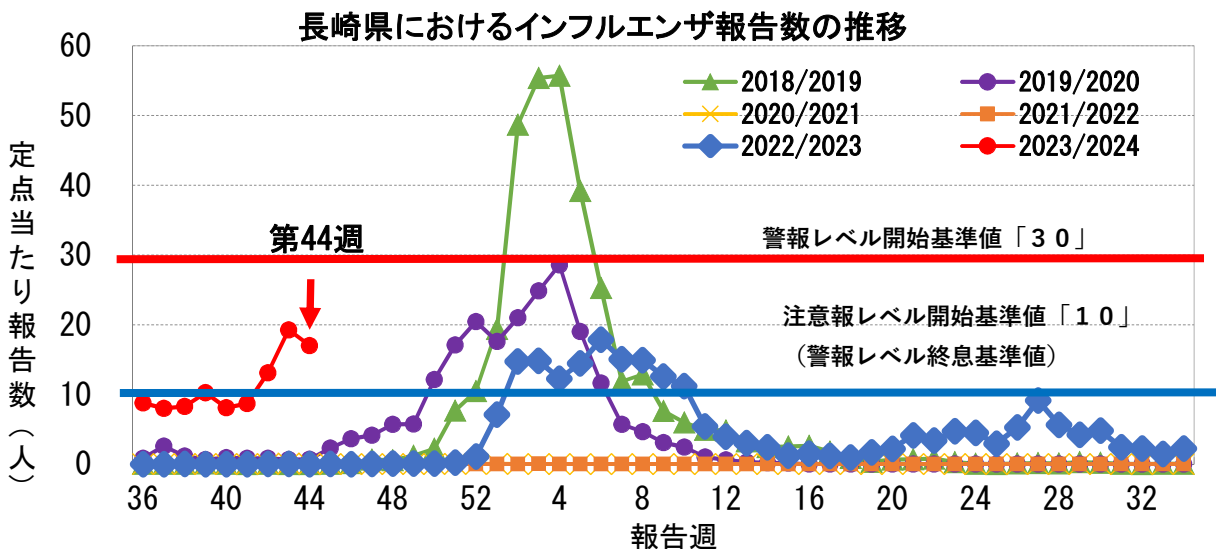
今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、かかりつけ医と相談のうえ、ワクチンを接種しましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html

インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	604	373	40	49	65	25	16	9	8
報告割合(%)	50.8	31.4	3.4	4.1	5.5	2.1	1.3	0.8	0.7



☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

長崎県では2023年第44週までに**118件**の梅毒の報告があり、過去10年の中で最多であった2022年の58件の2倍を超える報告数となっています。男性が多く、年代別にみると20代が全体の約半数を占めています。男女別にみると、男性では20代および30代、女性では20代が多くなっています。

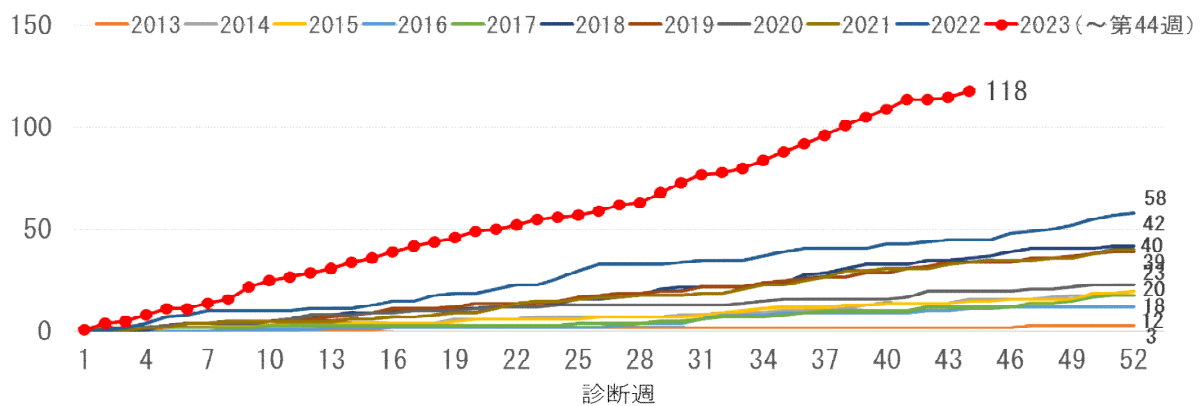
梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

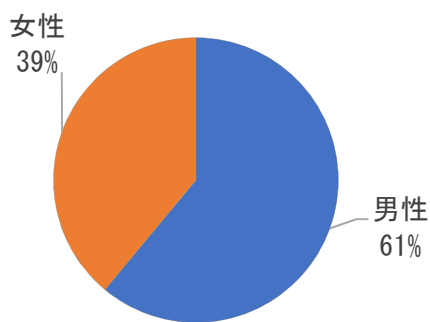
また、妊娠中に梅毒に感染すると、お腹の赤ちゃんに感染し、流産や死産の原因になったり、障害をもって生まれることがあります。妊娠早期に発見、治療すれば赤ちゃんに影響を与える可能性も低くなります。県内では、**2023年に妊娠中6名**の報告があがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

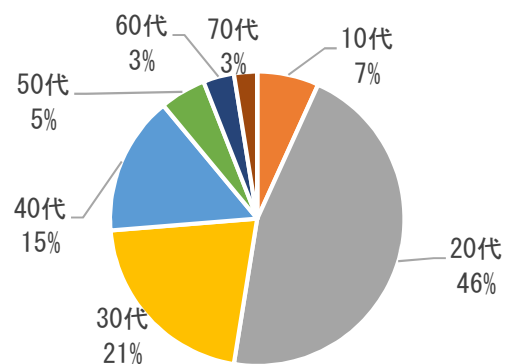
長崎県における診断週別累積患者報告数



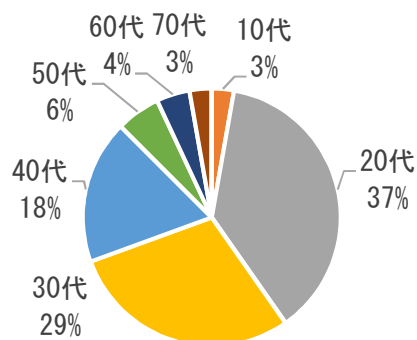
梅毒・性別割合



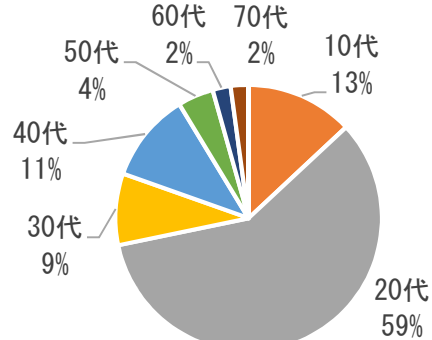
梅毒・年代別割合



年代別割合・男性



年代別割合・女性



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第44週：10月30日から11月5日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

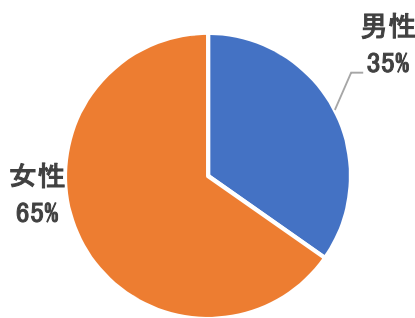
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第44週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「1.99」より減少し、「1.36」でした。8週連続で減少しています。

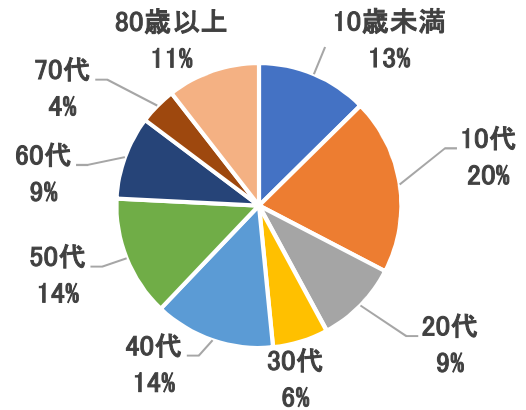
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	95	22	8	4	11	20	10	0	3	4	13
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	1.36	1.29	0.73	0.67	1.00	2.50	2.50	0.00	1.00	1.33	4.33

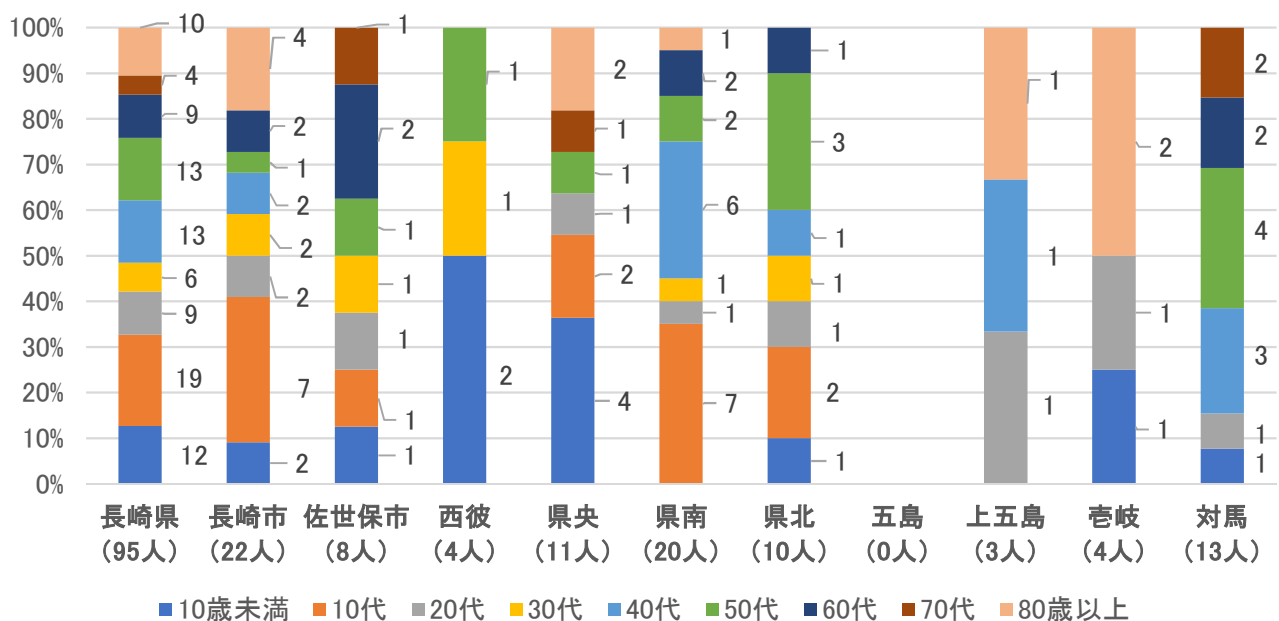
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症： 結核 患者 男性（80代以上・1名） 女性（80代以上・1名）
無症状病原体保有者 男性（80代以上・1名）

3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（10代・1名）

4類感染症： 報告なし

5類感染症（全数把握対象）： カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（80代以上・1名）
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 患者 女性（70代・1名）
梅毒 患者 男性（20代・1名、40代・1名） 女性（30代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第39~44週、9/25~11/5)

疾患名	定点当たり患者数					
	39週	40週	41週	42週	43週	44週
	9/25~	10/2~	10/9~	10/16~	10/23~	10/30~
インフルエンザ	10.23	8.09	8.69	13.09	19.27	16.99
新型コロナウイルス感染症	9.46	4.73	3.30	2.44	1.99	1.36
RSウイルス感染症	0.34	0.34	0.18	0.23	0.23	0.09
咽頭結膜熱	2.02	1.98	2.02	2.59	2.89	3.41
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.30	2.09	1.70	3.41	3.77	3.20
感染性胃腸炎	2.02	1.82	1.32	1.61	2.14	2.50
水痘	0.11	0.05	0.09	0.07	0.07	0.05
手足口病	2.39	1.23	1.70	1.70	1.80	1.27
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.05				
突発性発しん	0.30	0.39	0.32	0.30	0.30	0.27
ヘルパンギーナ	0.57	0.59	0.32	0.32	0.45	0.25
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05	0.07		0.05	0.02	
急性出血性結膜炎		0.13	0.13	0.13	0.25	0.13
流行性角結膜炎	0.50	0.88	0.50	0.88	0.50	0.75
細菌性髄膜炎	0.08				0.08	0.17
無菌性髄膜炎	0.08					
マイコプラズマ肺炎			0.08			
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				0.08		

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第44週、10/30~11/5) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	16.99	35.18	17.71	4.33	11.00	17.27	10.88	24.25	4.50	5.00	5.00
新型コロナウイルス感染症	1.36	0.73	1.29	1.33	0.67	1.00	2.50	2.50		1.00	4.33
RSウイルス感染症	0.09	0.33			0.25						0.50
咽頭結膜熱	3.41	0.50	5.20		10.50	6.29	0.40	0.67			2.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.20	1.67	1.30		8.00	2.14	10.20	4.67			3.00
感染性胃腸炎	2.50	2.50	4.70		3.00	3.57	0.80	2.00	0.33		
水痘	0.05	0.17			0.25						
手足口病	1.27	1.17	0.30		1.00	5.00	0.20	2.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.27	0.50	0.30		0.25		0.80	0.33			
ヘルパンギーナ	0.25				0.25	1.00		1.00			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.75	1.00	0.67				3.00				
細菌性髄膜炎	0.17	2.00									
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											